地域とともに

協働の現場から

—34—

しぜん教育研究学園

体験通し恐さも指導

プレハブ小屋に畑、手作りのプールがあり、ヒツジやポニーを飼育している。「しぜん教育研究学園」は、館林市成島町の東武小泉線近くにある学童保育所。敷地は子供数十人が走り回れるほどの広さがあり、保育所というよりも小さな学校だ。

子供たちはここで、たくさんの遊びや人間関係、自然の厳しさや楽しさを学ぶ。学園長の高橋弘明さん(39)をはじめ五人のスタッフも子供たちと遊ぶ。子供たちはスタッフのことをあだ名で呼び、スタッフにも子供たちの世話をするという感覚はない。

栃木県内の高校で物理の教師だった高橋さんは、実験や体験を通じて物理の楽しさを教えようとしたが、教頭らから危険性を指摘されて断念した。教えたいことを教えられないもどかしさが退職を決意させた。

「最近は危険性ばかりが強調され、子供が自由に遊べる環境が減りつつある。危険に対して子供自身に責任を持たせることで、挑戦の幅が広がるはず」

同じ考えを持った六人が集まり、二〇〇一年に同学園を開設。学童保育のほか、各地から参加者を募って夏休み中などに開く季節学校や野外体験学習を実施している。洞窟探検や富士山登山、キャンプなど危険が伴う活動も積極的に体験させる。

開設当初は保護者から非難の声もあったが、「帰宅した自分の子に笑顔で『楽しかった』と言われたら、親は納得するしかないでしょ」と笑う。現在は周辺市町村の各教委から支援を受けるまでになった。

今後は学校法人の取得が目標といい、現在の施設をさらに拡充する考えだ。「子供たちにやりたいことを自由にさせてあげたい」。これからも開設時から変わらぬ思いで、子供たちの成長を見守る。

メモ 二〇〇一年に発足し、同年にNPO法人化した。夏のサマースクールは県外から参加者が訪れるほど人気を集めている。

子供たちの明るい声が響きわたる「しぜん教育研究学園」